

創作コンクールの成果と課題

創作事業部長 今井由喜（渋谷区立渋谷本町学園）

まず、第53回東京都中学校音楽創作コンクールに関わってくださったすべての方に、心より感謝申し上げます。

今年度は283作品の応募があり、結果の内訳は、優秀賞2作品（0.7%）、優良賞21（7.4%）、入選106（37.4%）、佳作120（42.4%）、奨励32（12%）でした。優秀賞の授与は第35回大会以来、実に18大会ぶりです。

① 成果

3月5日には港区立白金の丘学園講堂をお借りして、3年ぶりに公開実施で作品発表会兼教員研修会を行いました。“兼教員研修会”と銘打つのははじめてのことです。演奏発表の他、作曲生徒や指導者へのインタビューを行い、創作授業のアイデアや創作における生徒の思考などについて共有することができました。また、生徒から滝浦盛先生、滝口亮介先生（参考作品作曲者）、松井孝夫先生（審査員）に向けて、「作曲家の方が通常どのようなやり方で作曲するのか知りたい」という質問が出ました。この質問が作曲家の先生方から創作における大切なことをご教示いただくきっかけとなり、教員研修会としての価値も高めてくれました。

② 課題

今年度は283作品の応募があったものの、応募校数はたったの15校でした。また、15校の内、音楽の授業で取り組んだ作品を出した学校は3校でした。他は生徒が学校内外での自身の音楽経験を生かしてつくった作品です。

このことから、創作コンクールは「自身の能力を発揮する場」となっているが、「創作授業の活性化には十分に貢献していない」ことがわかります。創作授業に資する創作コンクールをつくり、応募校数を増やすことが課題です。

課題解決の策として、次年度は教員研修会を2回行うことも考えています。内1回は、今年度同様、作品発表会兼教員研修会（3月）、もう1回は「創作授業の事例研究」といった内容で、応募に間に合うように秋頃迄の実施を考えています。

時代の要請として、創造性を育む教育が求められる中、創作コンクールが果たす役割は大きいと信じて、今後も挑戦姿勢でまいります。